

## 2016.9 水産大学校予想問題1

現在、日本近海に生息する太平洋クロマグロは、国際自然保護連合が新たに絶滅危惧種に指定するほど激減している。その原因として、どのようなことが考えられるだろうか。また、その対策としてどのような取り組みがなされているか。この問題に対するあなたの意見と合わせて800字以内で述べよ。

日本近海のクロマグロは、1950年代に4万トンあった漁獲量が現在1万数千トンにまで落ち込んでいる。なぜこれほど減ったのか。私は3つの原因があると考えます。

第一の原因は、人間による乱獲だ。しかも、未成魚のマグロまで獲ってしまった。クロマグロは普通3～5歳で卵を生む。しかし、日本のスーパーに並ぶのは0～1歳の小型のクロマグロだ。数が減ったから未成魚まで獲って産卵の機会を奪い、さらに数を減らすという悪循環が起きている。

第二に、海洋の環境が変化したことが挙げられる。汚染だけでなく、海洋が酸性化したり、水温が上昇したりしているという報告がある。この環境の変化がマグロの産卵場所や回遊コースに変化を引き起こしたことも考えられるだろう。

第三に、人間の食文化が変化してきたことだ。以前は、刺し身のような生魚を食べるのは日本などごく一部の国に限られていた。しかし、和食がユネスコの無形文化遺産に登録され、日本食のおいしさやヘルシーさが世界中に発信されると、多くの国で寿司や魚料理を出す日本食レストランが急増した。世界的にマグロの消費量が倍増した。その中には中国や台湾、韓国も含まれている。

では、このような状況でクロマグロを増やすには、どうすればよいだろうか。私は、太平洋地域の国々が協力して漁獲量を規制することが必要だと考える。実際に、大西洋クロマグロに関して、違法操業を取り締まる監視人を乗船させるなどして漁獲量を厳しく制限した結果、資源が回復し、漁獲量が増加したという事例もある。

また、国内的にも、クロマグロが絶滅危惧種に指定された意味を真摯に受け止め、漁業者に所得補償をしてでも、独自に2年程度クロマグロの漁獲と輸入を大幅に制限するというような政策に取り組むべきだと考える。